

和歌山病院での実習を終えて



丸山 容平

今回、呼吸器内科のポリクリの一環として国立病院機構 和歌山病院で2日間実習させていただきました。お忙しいにも関わらず、熱心に指導していただきありがとうございました。

和歌山病院は豊かな自然に囲まれた落ち着いた雰囲気のある病院で、県内唯一の結核病床を持ち、和歌山の結核治療の中心的な役割を備えた病院でした。2日間の実習では胸部レントゲン写真の読影から、現在の結核治療に関することまで呼吸器疾患に関する多くのことをご指導いただきました。結核病床は今までに見たことがなく、陰圧の設備やN95マスクなどを教科書や講義で話聞くばかりでしたが、今回、駿田先生に病院を案内していただくことで、身をもって体感し理解を深めることができました。また、自分の中で結核患者さんに対して間違った認識をしている部分が多々あり、その間違った認識を直すこともできました。結核患者さんを診る機会が以前に比べ少なくなったからこそ、医師になる者として正しい知識を身につけ、最善の医療を患者さんに提供するという責任を痛感しました。

さらに南方病院長には、自分たちが今までやってきた暗記を中心とした勉強で凝り固まった頭に、考えることを中心とした講義で油をさしていただきました。昔に遊んだ影絵を例に、胸部レントゲン写真についてレントゲン写真の原理から読影の仕方までわかりやすく、自分自身で考え、答えにたどり着けるよう進めていただきました。僕たちが理解しきれていないところがないように何度も立ち止まり、繰り返しながらご指導していただきました。そのお蔭で胸部レントゲン写真の読影に対して少し自信を持てたように思います。また、夕食をご馳走になった際には、学生が良い医師になるためのお話など色々なお話を聞かせてもらい、大変有意義な時間でした。

2日間という短い期間でしたが医師の先生方はじめ、事務職員の方々も大変親切にありがとうございました。この経験を活かし、これからより一層頑張っていきたいと思っています。